

宮崎県社会福祉サービス第三者評価結果書

評価完了日 令和 2年 3月31日

評価機関 社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会

評価実施期間 令和元年 6月21日～令和 2年 3月31日

1 第三者評価結果の概要

(1) 施設・事業所情報

施設・事業所名	ととろ保育園	種別	保育所
代表者氏名	園長 森山 沙代	定員（利用人数）	60
所在地	〒889-0622 延岡市土々呂町 4-4390-20	TEL	0982-37-0100
		FAX	0982-37-0105
ホームページ	totoro-m.jp		

(2) 評価結果

① 特に評価の高い点

- 1 子どもの遊びを豊かにする保育を展開するため、子どもの成長・発達を捉えた室内遊びの環境づくりとして、3～5歳児の部屋に子どもが選択して自主的に遊べる「コーナー保育（4つのブース）」を整備しています。遊具は子どもが取り出しや片付けがすぐにできる場所や位置に設定し、どこに何があるか分かりやすく、子ども自ら主体的に遊べるようにしています。
- 2 園発展計画（総合的中長期計画）で、総括的な指針や目標、経営課題などが明確にされ、各種マニュアルも整備されています。また、園発展計画に人事の基本方針が明記され、園独自の評価項目に基づき、年2回の職員面談や自己評価の実施など、総合的な人事管理や保育の質の向上に向けた体制が確立されています。
- 3 保育課程に基づいた指導計画書や日々の記録作成等において、保育士の業務負担を軽減するため、ICT 機器が導入されています。また、理念や事業方針、全職種の勤務形態ごとに業務マニュアルも ICT にて整備管理されているため、日々正しい手段で効率的に進められているか確認ができ、職員の自己評価や目標作成にも生かされています。さらに、各クラスに配置されているタブレットで、日々の園児の情報や業務連絡等がスピーディーに伝達されており（休日の職員には携帯電話へ）、今年のテーマである「報告・連絡・相談」が実践されています。

② 改善が求められる点

- 1 理念や各年度の職員実践目標などの保育姿勢は、職員会議や年2回の個人面談等で一般職員にも伝達されていますが、「報告・連絡・相談」「提出物の期限を守る」等、基本的な組織人としてのルールを遵守させていくために、職員個別の能力や経験値に応じた育成計画を確立し、組織的に更なる職員の能力向上と質の高い保育実践にむかって努力することが望まれます。
- 2 保育の内容について組織的に評価を行う体制が整備され、評価結果は全体勉強会で共有されていますが、文書化はされていません。また、評価で終わってしまう傾向がありますので、評価結果の改善について、全体勉強会の出席率を高め、分担や責任、実施時期の決定など継続的な取組が望まれます。
- 3 苦情に関して、申し出た保護者に対してはフィードバックしていますが、公表はしていません。保護者に情報を提供することは保育の質の向上と保護者への安心を促すことにもつながりますので、苦情を申し出た保護者等に配慮した上で園だより、ホームページ等での公表が望まれます。

① 評価結果に対する施設・事業所のコメント

評価して頂いたことで、自園の強み・弱みを把握することができた。
改善が求められる点の中には、今回気付かされた部分も多くあったが、職員間でもあがっていた話でもあったため、早めに改善すべき点であったことを反省し、受け止めたい。今後は、よりよい園づくりのために改善に力を注いでいきたい。評価の高い点については、より伸ばせていけるよう継続的な取り組みを行っていただければと思う。

2 施設・事業所情報

経営法人・設置主体	社会福祉法人 つくしんぼ福祉会 ととろ保育園
開設年月日	平成27年4月1日
理念・基本方針	【保育理念】 子どもたちの日常生活を大切にしながら、人との関わり合いの中で「共に育ち・望ましい未来を創造する（共育・未来・創造）のために、わたくしたちは、それぞれの子ども達にとって何が大切なのか、そして何をすべきかを考え続け実践につなげていきます。子どもたちにとって保育園がいつまでも心のよりどころとなることを願って」

	<p>【保育方針】</p> <p>居心地のいい空間・時間のゆっくり流れる空間の中で、日常生活と人との関わり合いを大切にした保育をいたします。</p>
事業内容	乳児保育・延長保育・障がい児保育・アレルギー対応給食
職員数	<p>常勤職員数 15名</p> <p>非常勤職員数 6名</p>
専門職	<p>(専門職の名称)</p> <p> 栄養士・調理師 1名</p> <p> 保健師・看護師 1名</p>
施設・設備の概要	<p>建物面積 188.7㎡</p> <p>園庭面積 397㎡</p>
特徴的な取組	<p>【望ましい子ども像】として以下を掲げ、保育を行っている。</p> <p>①友達を大切にする思いやりのある子ども</p> <p>②自分の思っていることが言える子ども</p> <p>③体力のある子ども</p> <p>④未来を生き抜く力をもった心身ともにたくましい子ども</p> <p>⑤新しいものを切り開き、生み出していく創造性豊かな子ども</p> <p>⑥美しいものに感動する表現豊かな子ども</p> <p>●年長児は伝統文化に触れる・作法を身に付けることをねらいとして、華道・茶道・書道を取り入れ、外部からの講師を招き行っている。</p> <p>●園の前に自動販売機を設置し、その売り上げを地域に貢献している。(区長さんに手渡し)また、地区との合同避難訓練を実施している。</p> <p>●宮崎安心セーフティネット事業に参加しており、研修等で知識を深めつつ地域に目を向けることができている。</p>

評価結果表（ととろ保育園）

I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。

1	I-1-(1)-①		評価
理念、基本方針が明文化され周知が図られている。			b
評価コメント	理念、基本方針は明文化され、玄関に掲示されるとともに、広報誌やパンフレット、入園のしおりに記載されています。職員は毎年3月の園発展計画説明会や毎月の全体勉強会で理念や方針を学んでいます。また、保護者には入園説明会で説明し、ホームページにも載せていますが、十分な周知を図るための工夫が望まれます。		

I-2 経営状況の把握

I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。

2	I-2-(1)-①		評価
事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。			a
評価コメント	法人として「門川町子育て人づくりセンター」を運営するなど、地域の福祉計画の策定動向などを把握しており、地域の出生数の動向や利用者の推移などの保育ニーズをデータ化し、把握・分析しています。		

3	I-2-(1)-②		評価
経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。			b
評価コメント	幹部は毎月、法人本部で経営環境や職員体制について問題を共有しており、理事会でも改善点について問題を共有し、今後のあり方など検討していますが、経営課題などについて全職員に十分周知するには至っていません。		

I-3 事業計画の策定

I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。

4	I-3-(1)-①		評価
中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。			b
評価コメント	中長期計画として園発展計画が策定され、全体への説明をしていますが、職員が評価する内容にはなっていません。園の目標や個人の目標をチェックしたり、保護者のアンケートなどを評価できるシステムづくりが望まれます。		

5	I-3-(1)-②		評価
中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。			a
評価コメント	園発展計画に基いた単年度の具体的な事業計画が策定されています。また、職員には、事業計画の重点目標などを意識しているかなど自己評価させ面談をしています。		

I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。

6	I-3-(2)-①		評価
事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。			c
評価コメント	事業計画は園発展計画説明会や全体勉強会で周知されています。職員の意見は報告会などでも取り上げられますが、事業計画は理事長、幹部職員だけで作成して全職員が関わることができないため、策定手順等について検討が望まれます。		

7	I-3-(2)-②		評価
事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。			b
評価コメント	入園したばかりの保護者には昼過ぎに、継続して在園する保護者には夜間に、担当者が重要事項説明書や入園のしおりなどを使って事業計画を説明しています。なお、出席できなかった保護者には個別に説明を行うなど工夫がされています。		

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

8	I-4-(1)-①		評価
保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。			b
評価コメント	保育の計画の手順書が作成され、PDCAの詳細については園発展計画に記載されており、実践、見直しも行われています。また職員は年2回、自己評価を実施し、その結果を基に面談し評価も行われるなど園全体で保育の質の向上に取り組んでいます。		

9	I-4-(1)-②		評価
評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。			c
評価コメント	評価結果は全体勉強会で共有していますが、文書化はされていません。また、評価で終わってしまう傾向がありますので、評価結果の改善について、分担や責任、実施時期を決めるなど、継続的な取組が望まれます。		

II 組織の運営管理

II-1 管理者の責任とリーダーシップ

II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。

10	II-1-(1)-①		評価
施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。			b
評価コメント	職務分掌に役割が記載され、リーダー会議で報告が行われています。また、毎月の園だよりにより園長自らの考えなどを記載し、周知が図られています。不在時の権限委任についても明確化されています。		

11	II-1-(1)-②		評価
遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。			b
評価コメント	園長は様々な研修や会議に参加し、情報収集を行っており、それを園発展計画に記載するとともに、全体勉強会で説明し、職員への周知を図っていますが、勉強会に参加できていない職員もいるため、十分周知するための取組が望まれます。		

II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。

12	II-1-(2)-①		評価
保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。			b
評価コメント	園長は、保育方針から良い保育の実践や保育計画の立案などを指導しています。また、行事終了後に職員が個別に振り返りシートを作成し、次回の改善に活かすなど工夫がなされていますが、今後は職員の意見を保育の質の向上に反映するための具体的な取組が望まれます。		

13	II-1-(2)-②		評価
経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。			b
評価コメント	ICTを積極的に活用し、園の理念や方針に沿って、経営の改善や業務の実効性の改善に取り組んでいる。		

II-2 福祉人材の確保・育成

II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

14	II-2-(1)-①		評価
必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。			a
評価コメント	人員体制や採用についての基本的な考え方は、園発展計画に記載され、職員に周知されています。採用チームが中心となり、採用ホームページの作成や就職フェア等への参加など、計画的に募集が行われています。		

15	Ⅱ-2-(1)-②		評価
総合的な人事管理が行われている。			a
評価コメント	園発展計画に人事の基本方針が記載され、職員への周知が図られています。園独自の評価項目があり、年2回、それを基準として面接や自己評価、幹部での分析、評価が行われています。園発展計画や評価基準シートで求める人材や期待する職員像が明確に記載され、法人内の交流や異動も行われています。		

Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

16	Ⅱ-2-(2)-①		評価
職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。			a
評価コメント	職場は有給が取りやすく、残業も少ない職場で働きやすい環境づくりに努めています。年度途中にストレスチェックを行い、年2回は全職員との面談も行われ、一人ひとりの職員の状況を把握できる機会が設けられています。		

Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

17	Ⅱ-2-(3)-①		評価
職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。			b
評価コメント	評価基準項目や園発展計画で組織が求める人材、期待する職員像が明確にされています。また、最近、目標管理シートを個人で作成し、目標達成のための手立てができるツールに取り組んでいます。		

18	Ⅱ-2-(3)-②		評価
職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。			b
評価コメント	外部研修には積極的に参加し、参加したい研修がある場合には提案書を作成し、申し出ることができるようになっています。園内では毎月、全体勉強会を開催するとともに、保育指針に基づく「保育の学校」の本をテキストとして職員教育を年3回行っていますが、参加者が少ないため、今後参加者を増やすための取組が望まれます。		

19	Ⅱ-2-(3)-③		評価
職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。			b
評価コメント	研修一覧表を作成して知識、技術の習得の状況を見ながら、職員に応じた研修を受けさせ、一人ひとりの職員がキャリアアップできるように職員の育成に取り組んでいます。また、新人指導のため、新人とベテランが組んでクラス担当になるなど、OJTにも取り組んでいます。		

II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

20	II-2-(4)-①		評価
実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。			b
評価コメント	実習生の受け入れに関するマニュアルを作成し、実習生を受け入れる前には必ずクラスで読み合わせを行っています。また、指導担当者は、経験豊富な職員や年齢が近い職員にすることで、相談しやすい、話しやすい雰囲気を取り組めるように配慮しています。		

II-3 運営の透明性の確保

II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

21	II-3-(1)-①		評価
運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。			b
評価コメント	ホームページで法人や保育園の理念や基本方針・保育内容は記載されていますが、事業計画・事業報告・決算・予算の記載がなされていないので、改善が望まれます。なお、地域や保護者への情報提供として、事業報告や決算報告などをファイルに綴じ、情報公開に努めています。		

22	II-3-(1)-②		評価
公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。			b
評価コメント	園発展計画に事務処理の流れやルール、権限や責任などが記載されています。会計士や税理士による指導も受けています。また、県監査とは別に、法人監査、施設監査を年1回ずつ実施し、指導事項を周知するとともに改善を図っています。		

II-4 地域との交流、地域貢献

II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。

23	II-4-(1)-①		評価
子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。			b
評価コメント	入園式、卒園式、発表会、餅つき会等の行事に地域の方を招き、コミュニケーションを大切にしながら交流を図っています。また、地域の行事に参加する機会もあり、地域に根ざした保育園を目指しています。		

24	II-4-(1)-②		評価
ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。			b
評価コメント	ボランティアの受け入れに関するマニュアルが策定されており、毎年、地域の中学生の職場体験を受け入れています。		

II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。

25	II-4-(2)-①		評価
保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。			b
評価コメント	年に2回、保健師の巡回があり、1歳半や3歳児健診で気になる園児には経過観察が行われています。また、些細なことでも保護者や児童の気になることは記録して連絡会や会議等で共有するようにしています。しかし、地域の社会資源のリストなどがなく、今後、作成等が望まれます。		

II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

26	II-4-(3)-①		評価
地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。			b
評価コメント	園庭開放や宮崎安心セーフティネットの受け入れなどに取り組んでいます。また、「つくしんぼ児童クラブ」や「子育て人づくりセンター」など多様な子育て支援に取り組んでいます。		

27	II-4-(3)-②		評価
地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。			b
評価コメント	宮崎安心セーフティネットの受け入れを行っており、地域の方の相談依頼に基づき活動を始めています。なお、民生委員・児童委員との交流はありますが、定期的な会議などは行えていないので地域の福祉ニーズの把握に努めることが望まれます。		

III 適切な福祉サービスの実施

III-1 利用者本位の福祉サービス

III-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。

28	III-1-(1)-①		評価
子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。			a
評価コメント	全国保育士倫理綱領を毎朝の連絡会で読み合せを行い、基本的な考え方を理解できるような取組を行っています。また、人権擁護のためのセルフチェックを定期的に行っています。保育では「コーナー保育」を行っており、子どもが自ら考え、選択して遊べる環境を設定しています。		

29	III-1-(1)-②		評価
子どものプライバシー保護に配慮した保育が行われている。			a
評価コメント	プライバシー保護についてのマニュアルがあり、職員への周知も図られています。個人情報に記載されている書類は金庫、もしくは鍵のある棚で保管するようにされており、テレビ、新聞等の取材や園での資料作成時の写真、氏名等の掲載、公表については、保護者の承諾書を得るなどの対応がされています。		

Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

30	Ⅲ-1-(2)-①		評価
利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。			a
評価コメント	来園された見学者には担当が対応し、パンフレットの写真等を見ながら保育園の方針や特色など、わかりやすく、説明を行っています。また、定期的にパンフレットの見直しも行っています。		

31	Ⅲ-1-(2)-②		評価
保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。			a
評価コメント	資料や写真、図を用いたり、大切なところに色付けして分かりやすいように工夫しています。また、配慮が必要な保護者には個別に対応して同意を得ています。		

32	Ⅲ-1-(2)-③		評価
保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。			b
評価コメント	保育園の利用が終了した際の相談方法については口頭で伝えています。相談窓口を設け、相談しやすい環境づくりなどの対応に努めていますが、現在のところ利用がありません。		

Ⅲ-1-(3) 利用者満足の上昇に努めている。

33	Ⅲ-1-(3)-①		評価
利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。			b
評価コメント	保護者に対し参観日にアンケートを実施し、保育や給食に対する満足度調査を行っています。また、今年度、保護者会ができたことで、少しずつ保護者の意見が聞けるようになってきています。		

Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。

34	Ⅲ-1-(4)-①		評価
苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。			C
評価コメント	苦情解決の体制が整備されており、苦情があった際は分析表を用い、原因を考え、対策を決定しています。入園のしおりや重要事項説明書にも苦情相談の窓口、担当者、責任者、第三者委員等が明記されています。なお、苦情内容や解決結果等の公表ができていないので、園だよりやホームページ等での公表が望まれます。		

35	Ⅲ-1-(4)-②		評価
保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。			b
評価コメント	入園のしおりや重要事項説明書に記載されており、保護者へは入園説明会で伝えています。相談内容によっては、担当者や場所の検討もされています。		

36	Ⅲ-1-(4)-③		評価
保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。			b
評価コメント	対応マニュアルが作成されており、職員に周知され、保育の質の向上に努めています。また、保護者からの意見や相談は必ず報告し、エバーノート（PC上のノート）に記録して連絡会や会議等で共有するようになっています。なお、対応マニュアル等の定期的な見直しが見込まれます。		

Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。

37	Ⅲ-1-(5)-①		評価
安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。			b
評価コメント	事故発生時のマニュアルもあり、ヒヤリハットやSHELL分析（事故記録）を作成して再発防止に努めています。また、年1回、保険会社の講師より事故事例の研修を全体で受けたり、月1回は全体会議で事故事例の読み合わせを行っています。		

38	Ⅲ-1-(5)-②		評価
感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。			a
評価コメント	感染症に関するマニュアルがあり、年に1回、小児科医師により感染症に関する講演会を実施しています。また、月初めに保健だよりを発行し、保護者への情報提供を行っています。		

39	Ⅲ-1-(5)-③		評価
災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。			b
評価コメント	毎月様々な時間帯、方法で避難訓練を行い、反省点をあげ改善策を検討しています。また、災害対応マニュアルがあり、定期的に見直しを行っています。なお、引き渡しカードが現在行われていないので、実技訓練が望まれます。		

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。

40	Ⅲ-2-(1)-①		評価
保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。			a
評価コメント	一日の保育士・看護師の業務の流れを記載した「基本職務基準書」が様々な勤務形態や勤務年数に応じて整備されており、その「基本職務基準書」は全員に配布され、それをもとに日々の業務が行われています。標準的な実施方法については、各クラスの経験のある保育士からの指導や確認が行われています。		

41	Ⅲ-2-(1)-②		評価
標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。			a
評価コメント	日々の保育について、クラス会で保育の実施の反省や週案・月案等で気になる事、標準的な実施方法と現状が違う場合は、随時クラスリーダーが、園長・主任保育士に報告しています。また、変更した内容は、赤字で修正し、全員に資料を配布しています。さらに、リーダー会や全体会議等で必要に応じて話し合い、見直しも行っています。保護者からの意見や要望等は、リーダー会で検討されています。		

Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。

42	Ⅲ-2-(2)-①		評価
アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。			a
評価コメント	保育課程に基づいた年・月・週等の指導計画は、各クラス担任が作成し園長・主任保育士が確認しています。個々の発達段階や家庭背景等を踏まえた個別指導計画に基づいて、毎月の狙いや振り返りを行い、日々の生活記録や保護者への関わり等が記録されています。また、現在、市と連携し、発語等で気になる5名の園児に対して、市から委託を受けた言語聴覚士より2か月に1回、1人20～30分程度、園内で発語指導が行われています。		

43	Ⅲ-2-(2)-②		評価
定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。			b
評価コメント	指導計画の見直しは、3～5歳児は2か月に1回、未満児や3～5歳児で気になる園児については、毎月アセスメントを行っています。今後は、現在実施している評価、見直しの手順や指導計画を緊急に変更する場合の仕組みも含め、書面で明示することが望まれます。		

Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。

44	Ⅲ-2-(3)-①		評価
子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。			a
評価コメント	子どもの発達や理解等に関する日々の観察記録やカンファレンスを通じた保育の振り返りが、ICTによる保育支援ツールで記録され、全職員間で共有されています。また、情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報がタブレットを活用し、いつでも確認できる仕組みも整備されています。		

45	Ⅲ-2-(3)-②		評価
子どもに関する記録の管理体制が確立している。			a
評価コメント	個人情報保護に関する規程を整備し、個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が記載されています。また、個人情報が記載されている書類は、事務所内の棚に鍵をつけて管理しており、全職員には、個人情報を守るための誓約書に同意署名してもらっています。また、保護者へは、年1回の説明会時に説明と同意書を提出してもらい、園長と主任保育士が保管しています。		

A-1 保育内容

A-1-(1) 保育課程の編成

46	A-1-(1)-①		評価
保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。			b
評価コメント	保育課程は児童憲章、保育所保育指針などの趣旨をとらえ、保育園の理念、方針、目標に基づいて、子どもの発達過程、保護者、地域などを考慮して理事長や園長などの一部職員にて編成作成されています。今後は全職員で組織的、計画的に取り組み、かつ定期的な評価を行う事が望まれます。		

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開

47	A-1-(2)-①		評価
生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。			a
評価コメント	室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境に関しては、「安全な保育環境マニュアル」に基づいて、毎日チェックを行い、快適な状態を保っています。また、3～5歳児の子どもがくつろいだり、落ち着けるふれあいの場所として、ひとつの空間の中に、ままごと、積み木、絵本、造形ができる「コーナー保育」を設けています。		

48	A-1-(2)-②	評価
一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。		b
評価コメント	児童票や保育経過記録等で、発達や子どもの個人差の把握に努めています。ゆとりのある職員配置で、子ども一人ひとりに目を配り、言葉がけをし、気持ちをくみ取り、寄り添えるように取り組んでいます。乳児は1対1の関わりを特に大切にして、欲求を受けとめるようにしています。日々の保育の中で、保育士が丁寧に話し、状況に応じて対応するように取り組んでいます。時折、子どもをせかす言葉や激しい口調を使う職員がいるので、その都度、園長や主任保育士が指導を行い、改善に向けた取り組みを行っています。	

49	A-1-(2)-③	評価
子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。		a
評価コメント	個別の指導計画に基づき、個々の育ちに合わせて子どもが自分でしようとする気持ちを尊重し、無理強いをせず援助しています。一日の活動は室内外での遊びを中心に、活動と休息のバランスが保たれるように組み立て、子どもがせかさず主体的に過ごせるように配慮しています。子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重し、衣服の着脱、排せつ、食事等、個々のペースに合わせた声かけや援助を行っています。	

50	A-1-(2)-④	評価
子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。		a
評価コメント	「コーナー保育」では、子どもが自主的に遊べるよう様々な玩具を常備し配慮しています。また、給食当番を通して友達と協同して活動できる機会も設けています。列車を利用して動物園に行く遠足では、事前に子どもと保護者に、写真や絵を用いて、タイムスケジュールやあいさつをするタイミング等が分かりやすく記載された資料を配布しています。	

51	A-1-(2)-⑤	評価
乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		a
評価コメント	信頼感の形成と情緒の安定のため担当制を実施し、保育者との親密な愛着関係が築かれるように1対1での関わりを大切にした保育を実践しています。離乳食については、発達の段階に応じて栄養士や調理員も形状や品数等の確認を行い、排便の状況も含め家族との連携を密に行っています。	

52	A-1-(2)-⑥	評価
3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b
評価コメント	0歳児から継続して担当制を実施し、自我の出てくる時期なので、一人ひとりの育ちに合わせて、排せつ、着脱、食事、睡眠、清潔等の基本的な生活習慣の自立を、自分でしようとする意欲を尊重し、急ぐことなく、丁寧に分かりやすい言葉で伝えています。また、現在3～5歳児に導入している「コーナー保育」を、次年度は1・2歳児の部屋にも導入する予定で、現在具体的な取り組み内容を検討しています。	

53	A-1-(2)-⑦	評価
3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		a
評価コメント	5歳児は、外部講師による華道、茶道、書道（硬筆、毛筆）を取り入れ、30分程度きちんと椅子に座って人の話を聞くことや数遊びを導入する等、小学校入学に向けた取組が行われています。また、3～4歳児は、自分の好きな遊びやごっこ遊びを通して、友達と関わって遊べるよう、保育士が援助したり適宜関わりを持っています。	

54	A-1-(2)-⑧	評価
障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		a
評価コメント	脳性麻痺のある子どもが通っており、市内のこども発達支援センターにも並行通園をしているので、発達支援センターから、補装具の装着や筋肉のほぐし方等リハビリに関する情報収集を行っています。また、立ち上がり動作をスムーズに行うためバーの着いた椅子を購入したり、文字を書く際に身体を支える支援を行っています。現在は、車イス駆動の練習も行っており、他の園児や保護者も、移動中にバッグを持つなど障害のある子どもへの関わりに理解を得ています。	

55	A-1-(2)-⑨	評価
長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		a
評価コメント	一日を通して室内、戸外遊びをバランスよく取り入れ、子ども主体の生活となるよう工夫しています。家庭的な雰囲気ですっきりと過ごせるよう、「コーナー保育」で好きな遊びを存分に楽しめるようにしています。また、延長保育は2名で対応し、おにぎり等を提供しており、依頼があれば夕食も提供しています。また、タブレットを活用して職員間の引継ぎを丁寧に行い、子どもの様子を確実に伝えるようにすることで、保護者の信頼と安心を得ています。	

56	A-1-(2)-⑩	評価
小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。		a
評価コメント	毎年、年間計画に沿って小学校見学や園での小学生との交流を行い、保護者と共に子どもが意識をもって就学できるように配慮しています。また、月1回の全体勉強会にて「小学校までに育ってほしい10の姿」を用いて、就学を意識した保育内容を確認しています。毎年2月には、保育園職員と小学校教員との交流会や引き継ぎ等を行い連携を図っています。	

A-1-(3) 健康管理

57	A-1-(3)-①	評価
子どもの健康管理を適切に行っている。		a
評価コメント	健康管理マニュアルが整備され、体調に関して気になる点は記録し、必要に応じて職員会議で情報を共有しています。SIDSに関しては、0歳児は3分、1・2歳児は5分ごとに睡眠チェックを行い、心音を感知する機器も導入し、安全面の配慮を行っています。インフルエンザ対策等を含め、毎年3月の全体説明会で、健康に関する取り組みを伝えています。また、送迎時にも直接保護者に話し掛け、健康状態や発育状態の把握に努めています。	

58	A-1-(3)-②	評価
健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。		a
評価コメント	内科健診(年2回)、歯科検診(年1回)の結果は保護者に伝え、精査が必要な場合は、病院受診を促しています。また、経過観察等が必要な場合は職員会議で職員に伝達しています。また、虫歯に関する絵本や紙芝居を通して、うがい、歯磨き指導を行い、保護者にも自宅での歯磨きに協力をお願いしています。	

59	A-1-(3)-③	評価
アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。		a
評価コメント	全園児に対して、『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン(2019年度版)』に基づき、年に2回医師の指示を記録した「診断書」を保護者から提出してもらい、食事の提供を確認しています。食事の際は、配膳の間違いがないようにネームプレートを追加、アレルギー児用のトレーや食器を使用し、提供前に、保育士と調理員が除去食の確認を一緒に行っています。また、毎月アレルギーメニュー日を設定し、マヨネーズも豆乳マヨネーズに変える等、様々な工夫をして、全園児が同じメニューで食事ができるようにしています。他の保護者にも、アレルギー疾患の説明を行い、パンを持参する際には、パン粉が落ちないように注意するなど理解を求めています。	

A-1-(4) 食事

60	A-1-(4)-①	評価
食事を楽しむことができるよう工夫をしている。		a
評価コメント	食に関する豊かな経験ができるように、3～5歳児は、梅干し作り、おにぎり作り、芋の栽培等の食育活動を行っています。食事の席は、好きな子どもと自由に食べられるようにし、食器は磁器やガラス製品等を使用し食器を大切にすることを学ぶことができるようにしています。毎月「献立表」を作成し、「セミオーダー形式」の食事スタイルを取り、一人ひとりの食欲に応じた盛り付けを行い、無理に食事を勧めることはしていません。	

61	A-1-(4)-②	評価
子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。		a
評価コメント	給食衛生管理や離乳食に関するマニュアルに基づき、子ども一人ひとりの発育状況、体調等を考慮し、量、形状にも工夫をして提供しています。栄養士は子どもの食事の様子を観察し、子どもの反応も踏まえて、残食量を業務日誌に記録しています。また、季節に応じた行事食や、旬の食材を取り入れた献立を多く取り入れて提供しています。栄養士や調理士も、子ども達の食べる様子を見たり、保育士からも様々な情報を得る等、栄養士を中心にした衛生管理の体制を確立し、毎月、献立検討会を実施しています。	

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭との緊密な連携

62	A-2-(1)-①	評価
子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。		a
評価コメント	掲示板に、子どもが華道等に取り組む様子の写真を掲示したり、園における子どもの生活が詳細に分かるように、メールやSNS、お便り帳や送迎時の対話で伝えたり、保護者との連携に努めています。	

A-2-(2) 保護者等の支援

63	A-2-(2)-①	評価
保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。		a
評価コメント	お便り帳の内容や保護者の表情等が気になる場合も含め、日頃より保護者への声掛けを心掛け、子育て相談等に随時対応しています。また、園独自で、「防災」「メディア」等に関する講演会を開催し、保育園の特性を生かした保護者への支援を行っています。	

64	A-2-(2)-②	評価
家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。		a
評価コメント	虐待防止マニュアルが整備され、職員全体勉強会等でマニュアルの見直しが常に行われています。また、日頃より、心身の状態などに細心の注意を払って早期発見に努めており、虐待が疑われる場合は、市役所等の関係機関と連携を図っています。	

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）

65	A-3-(1)-①	評価
保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。		b
評価コメント	指導計画の評価や記録の中で保育士自らの振り返りを毎月行い、保育指針に基づいた自己チェックを年3回、保育内容の改善や専門性に関する自己評価を5月と11月に行い、園長と主任保育士との面談を年2回実施するなど、それぞれの果たしている専門的役割や課題を主体的にとらえ振り返ることができるシステムが確立されています。しかし、自己目標や将来性に関して取り組みが希薄な職員もおり、今後、保育園全体の人材育成や意識の向上に関する取り組みが望まれます。	